

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第32回）議事要旨

1. 日 時 平成24年6月26日（火）10：45～13：30
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 佐藤議長、井上評議員、金子（章）評議員、郷評議員、小間評議員、
笹月評議員、高畑評議員、廣田評議員、村上評議員、木下評議員、観
山評議員、林評議員、小森評議員、岡田（清）評議員、岡田（泰）評
議員、大峯評議員、渡部評議員、金子（修）評議員、井本評議員、小
杉評議員
(陪席者)
武田監事
(事務担当者)
増田事務局次長、亀原総務課長、新地企画連携課長、長谷川財務課長、
国立天文台佐藤事務部長、核融合科学研究所川畑管理部長、岡崎統合
事務センター穴沢事務センター長及び樋口財務部長 他
(研究成果発表者)
横山 雅之 准教授（核融合科学研究所）
4. 配付資料
 - 1 教育研究評議会（第31回）議事要旨（案）
 - 2-1 平成24年度基礎生物学研究所の組織改編（案）について
 - 2-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構組織運営通則 一部改正（案）新旧
対照表
 - 3 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
 - 4-1 財務諸表
 - 4-2 事業報告書（案）
 - 4-3 決算報告書
 - 4-4 監事意見書
 - 4-5 独立監査人の監査報告書
 - 4-6 平成23事業年度決算（案）のポイント
 - 5-1 平成25年度特別経費要求一覧表
 - 5-2 平成25年度自然科学研究機構施設整備費概算要求総表
 - 6-1 大学共同利用機関法人自然科学研究機構組織運営通則（抄）
 - 6-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構機構長選考会議規程
 - 6-3 大学共同利用機関法人自然科学研究機構教育研究評議会規程細則
 - 6-4 大学共同利用機関法人自然科学研究機構教育研究評議会外部評議員名簿
 - 7 自然科学研究機構外部評価について

- 8-1 平成24年度科学研究費補助金獲得状況（新規採択＋継続）
- 8-2 トムソン・ロイター PRESS RELEASE
- 9 年棒制職員の採用について（報告）
- 10 第12回自然科学研究機構シンポジウム（平成24年3月20日（火・祝））
アンケート結果
- 11 自然科学研究機構若手研究者賞（第1回）及び記念講演 開催報告
- 12 平成24年度 教育研究評議会の開催日程
- 席上配付資料 自然科学研究機構パンフレット（和文）
- 席上配付資料 自然科学研究機構パンフレット（英文）
- 審議終了後回収 名誉教授関係資料

5. 議事等

議事に先立ち、定足数並びに配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

前回教育研究評議会（第31回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

2) 基礎生物学研究所の組織改編（案）について

岡田（清）評議員から、資料2-1及び資料2-2に基づき、基礎生物学研究所における組織の改編について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

3) 平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について

観山評議員から、資料3に基づき、平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 平成23年事業年度に係る業務の実績に関する報告書の説明に際して、次年度以降は、パワーポイントなどを用いてわかりやすく説明するように考えている。
- 原子力発電所の事故以来、電力不足に対応するための節電の話が世の中で議論されている。生物資源のバックアップも含め、機構における停電対応はどのようになっているのか伺いたい。
- 国立天文台においては、三鷹地区は計画停電の範囲にあったため、乗鞍観測所から発電機2台を三鷹に移設した。また、三鷹に設置しているスーパーコンピュータの縮退運転を実施した。
- 岡崎3機関においては、被害もなく停電もなかった。現在、無停電電源装置は最長10時間稼働できるようになっており、さらに延ばしたいところだが、予算もあるので状況を見ながら対応していく。
- 基礎生物学研究所のIBBPでは、建物の耐震設定を従来の1.5倍としている。また、生物資源の冷却に液体窒素を使用するが、液体窒素のタンク容量では、2～3週間は冷却が可能となっている。

- 人事に関する計画の実績において、公募制・任期制を取り入れた、また、内部昇格禁止としたとあるが、具体的な内容について伺いたい。
- 分子科学研究所においては、特に若手研究者をプロモートしたいと考えている。人事評価については、所長によるヒアリングを実施している。内部昇格禁止とすることで、若手研究者の独立心が芽生えてくることを期待しており、実際にそうなっていると感じているが、この取組は、分子科学の分野で特有のことで、どの分野でも可能かどうかわからない。
- 各分野において、人材を育成することは大学共同利用機関の使命であると考えている。
- 天文分野では、研究者は約500人いるが、その内1/5は国立天文台に在籍しており、内部昇格はある。人事評価については、主に2つの観点から評価を行っている。一つは、研究内容であり、もう一つは、共同研究におけるマネジメントである。
- すばる望遠鏡の主焦点広視野カメラの製作においては、東京大学の国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構もメンバーに入っていたが、報告書に記載がないので、追記してほしい。
- 追記した上で、文部科学省に提出することとしたい。
- アルマ計画の進捗状況について、伺いたい。
- アルマ計画は、アタカマ密集型干渉計の製造が、受信機の一部を除いて完了したほか、日本が担当する受信機3バンドの量産を推進し、来年3月に完成し、運用される予定である。

4) 平成23年度決算について

事務局から、資料4-6に基づき、平成23年度財務諸表について説明があり、審議の結果、案(資料4-1から資料4-5)のとおり了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 人件費の削減について、総人件費改革として5年間で5%の人件費を削減することになっているが、これを大きく上回る14.4%の削減を達成している。これは、年俸制職員制度を導入して承継職員分の人件費を削減したのか、それとも何か特別な戦略を実施したのか伺いたい。また、総人件費改革への対応は、他の法人も苦勞しているが、どのように取り組まれているのか伺いたい。
- 人件費は増加しているが、総人件費改革への取組は、14.4%の削減となっている。人が増えているのに総人件費改革への取組が14.4%削減ということは、いわゆる常勤職員を減らして非常勤職員で対応しているということになる。承継職員が減っているということ。各機関において研究教育職員の欠員の補充を行わないなどの取組を行って、承継職員の削減を達成している。

5) 平成25年度概算要求について

事務局から、資料5-1及び資料5-2に基づき、平成25年度概算要求について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

6) 名誉教授の称号授与について

事務局から、審議終了後回収資料に基づき、名誉教授関係規程等について説明があった後、所属機関の長から、名誉教授称号の授与候補者について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

7) 機構長選考会議の委員の選出について

事務局から、資料6-1から資料6-4に基づき、機構長選考関係規程等について説明があった後、審議が行われ、井上評議員、金子（章）評議員、小間評議員、笹月評議員、佐藤（哲）評議員が選出された。

8) 自然科学研究機構自己点検・外部評価について

観山評議員から、資料7に基づき、第二期中期計画期間の中間的な時点として平成24年度に、各研究所の外部評価とは別に機構本部の外部評価を実施し、自己点検を行う旨報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 外部評価という観点から、教育研究評議員及び経営協議会委員以外から選出する予定である。

9) 平成24年度科学研究費補助金獲得状況について

事務局から、資料8-1及び資料8-2に基づき、自然科学研究機構における平成24年度科学研究費補助金の採択件数及び金額並びに論文の引用動向からみる日本の研究機関ランキングにおける自然科学研究機構の状況について報告があった。

9) 年俸制職員の採用について

佐藤議長から、機構の年俸制職員制度においては、顕著な業績を有し、満65歳を超えて雇用することが必要となる特別の事情があり、役員会の承認を得て特任教員を採用又は契約を更新した場合は、教育研究評議会へ報告することと定めている旨説明があり、岡田（泰）評議員から、資料9に基づき、生理学研究所で満65歳を超えて採用した年俸制職員について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 年俸制職員の雇用に係る原資はどのような経費か伺いたい。
- 現在、生理学研究所で雇用している年俸制職員の原資は、1/3が運営費交付金によるものであり、残りの2/3は外部資金である。

10) 自然科学研究機構シンポジウムについて

岡田（泰）評議員から、資料10に基づき、第12回自然科学研究機構シンポジウムを3月20日（火・祝）に東京国際フォーラムにおいて開催したこと、また、初めての試みとしてTV中継により岡崎コンファレンスセンターを中継会場として開催した旨報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 第12回自然科学研究機構シンポジウムについて、地元の高校にインターネット配信したことを紹介した。
- インターネットを利用した動画配信を検討したが、音質及び画像の乱れがあることから今回は実施を見送ることとした。
- 東京大学のカブリ数物連携宇宙研究機構でニコニコ動画を利用したことがあるが、見ているユーザがコメントをリアルタイムに書き込むことができるので、面白い。また、事前に連絡することで個人を特定できないようにモザイクを入れることもできるが、見難くなる欠点があり、学生からは不評であった。
- 国立天文台では、サイエンスカフェの際に動画配信を利用したことがある。

1 1) 自然科学研究機構若手研究者賞記念講演会について

佐藤議長から、平成23年度に自然科学研究機構若手研究者賞を創設した旨、説明があり、岡田(泰)評議員から、資料11に基づき、自然科学研究機構若手研究者賞授賞式(第1回)及び記念講演会を6月10日(日)にUDX THEATERにおいて開催した旨報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 女性研究者の受賞がないようだが、どのような審査手続きであったのか伺いたい。
- 候補者には女性研究者も含まれていたが、選考の時点で、残念なことに受賞者とはならなかった。女性ということで、有利・不利となるようなことはない。
- このような発表する場があることは、若手研究者に対する教育の効果もあるので、ぜひ続けていただきたい。
また、アンケート結果をぜひ講演者へフィードバックしていただきたい。
- 講演会終了後、ミート・ザ・レクチャラーズー講演者と直接語ろうーという、講演者と直接対話する機会を設けたところ、大変盛況であった。

1 2) 平成24年度会議日程について

事務局から、資料12に基づき、平成24年度の教育研究評議会の開催日程について報告があった。

1 3) NINS Colloquium について

佐藤議長から、NINS Colloquium を、平成25年2月頃に開催することを検討しており、詳細が決まり次第、改めて報告する旨説明があった。

1 4) その他

佐藤議長から、国立天文台チリ観測所の森田耕一郎教授が、5月7日(月)に赴任先のチリで不慮の事故で亡くなったことの報告があり、続いて林評議員から説明があった。

1 5) 機構の最近の研究成果について

本機構の最近の研究成果について、核融合科学研究所の横山 雅之 准教授から「大型ヘリカル装置 LHD における高温プラズマ閉じ込め研究」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上